

令和 8 年度 第 1 回 小牧市母子保健推進協議会 議事録

日 時	令和 8 年 7 月 31 日（金） 13 時 30 分～14 時 30 分
場 所	小牧市保健センター 2 階 大会議室
出席者	【委員】（名簿順） 林 芳樹 小牧市医師会小児科医 竹内 友康 小牧市歯科医師会小児歯科医師 松浦 由美 小牧市学校教育課指導主事 谷川 さよ 愛知県立小牧工科高等学校養護教諭 森島 厚子 小牧市幼児・教育保育課指導保育士 大野 千恵 小牧市子育て世代包括支援センター副所長 川崎 由美子 小牧市子育て世代包括支援センター家庭児童相談員 夏目 恵子 春日井保健所健康支援課長 牧野 かおる 主任児童委員 稲葉 敬子 小牧市民病院助産師 【事務局】 澤田 昌利 保健センター所長 三枝 尚子 保健センター所長補佐 小川 真波 保健センター母子保健係長 森 里加 保健センター成人保健係長 長谷川 真弓 保健センター母子保健係保健師 森 香帆 保健センター母子保健係保健師 柴田 花芽 保健センター母子保健係保健師 岡野 桃子 保健センター母子保健係保健師 鈴木 萌珠 保健センター母子保健係保健師 佐々木 泉 保健センター成人保健係歯科衛生士
欠席者	南 宏次郎 小牧市医師会産婦人科医 兼子 由起代 小牧市光ヶ丘中学校主任養護教諭 小川 喜世子 小牧市こども政策課長 上園 幸子 臨床心理士
傍聴者	1 名
配付資料	次第 資料 1・2-1・2-2・3 参考資料 1・2・3
1. 開会 (1) 所長あいさつ (2) 会長あいさつ (3) 新任委員あいさつ 2. 議題 (1) 5 歳児健康診査令和 7 年度実績報告及び令和 8 年度口腔機能発達検査中間報告 ・事務局より、資料 1 を用いて説明 【意見】	

(夏目委員) 小牧市は先進的に実施しており、興味深いデータである。健診の妥当性についてだが、全国的な取組でも支援が必要と判断された児の割合は3割程度である。小牧市は適切に実施していると感じる。今後は、支援をどのように行っていくかが重要である。この時期は愛着形成が大切であるため、支援の中でその点について心がけていることがあれば教えていただきたい。

また、口腔機能発達検査では要精検者が多い。今後どのように評価していくのか。従来のデータと組み合わせて評価するのか、個別に評価するのか。歯科医院につながり、うまくいった事例を積み重ねて示してもらえると、健診の意義がより認められると思う。

(事務局) 健診支援で心がけていることは、子どもの成長を保護者と共有し、その成長を共に喜ぶ姿勢を大切にしていることである。支援が必要な子どもの中には、結果を受け止められない保護者もいるが、その気持ちに寄り添いながら支援を行っている。

口腔機能発達検査について、現在は結果の推移を見ている段階である。小牧市歯科医師会および春日井保健所歯科医師と協議を重ねながら実施している。歯科健診結果だけでなく、医科の結果も含めて関連性を見ていきたい。

(森島委員) 保健センターと連携を取りながら実施している。5歳児連携シートに口腔機能に関する項目も含めてもらえるとよい。園生活の中で把握できることもあるため。また、言葉について健診フォローをしている児もいるため、言葉に関する項目も追加してほしい。

保護者がしんどさや限界を感じているという問診項目に該当する場合は、その内容についても連携シートに含めてもらえるとよい。園では話せない思いを書いている保護者もいると思われるため。

また、健診を拒否する児や受診しない児については、そのような家庭こそ育児に困難感を抱えている可能性があるため、今後も連携していきたい。

(2) 生と性のカリキュラム令和7年度実績報告

・事務局より、資料2-1・2-2を用いて説明

【意見】

(夏目委員) 昨日、教員等関係機関を対象に自殺ハイリスク者研修を実施した。講師から性に関するトラブルから、トラウマを抱えるケースが生じており、幼少期からプライベートゾーンについて学ぶ機会が必要との話があった。今後も引き続き取組をお願いしたい。

(3) 生と性のカリキュラム中学2年対象性に関するアンケートについて

・事務局より、資料3、参考資料1・2・3を用いて説明

【意見】

(竹内委員) 特に違いはないので、この程度でよい。

(事務局) 朝食摂取の有無や睡眠時間については、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で調査している。また、「悩んでいることができたとき、あなたはどうしますか」については、こども政策課所管の少年の生活意識と行動に関する調査で把握している。

Q6・Q7については、生と性のカリキュラムの中で伝えている。

一方、「Q8-3 インターネットにつながる機器によるトラブル」及び「Q4 自分は親に愛されて育てられていると思うか」については、いずれの調査でも実態把握を行っていない。

以上を踏まえ、このアンケート内容でよいか検討いただきたい。

(松浦委員) さまざまな部署と連携し、情報を集約して一目で見られるようにしてもらえるとよい。

(谷川委員) 「⑪ AI ツール」について、生徒から「ChatGPT に聞いた」という話を聞くことがある。そのため、この項目があるとよい。

(森島委員) AI ツールを使っている子どもも多い。それが必ずしも正解ではないということ伝えてほしい。

(大野委員) 内容は十分精査されているので、よいと思う。

(川崎委員) 修正はない。

(牧野委員) 子どもとの会話の中で、「アンケートをやった」と聞くとある。また、tetoru（小中学校連絡アプリ）で発信があると確認している。自分の子どもに関わる内容であれば見たい保護者もいるため、結果を見る機会があるとよい。

(稲葉委員) アンケート結果については、次年度の課題として整理し、事業内容や中学生への指導に反映していくとよいのではないかと。また、アンケートの集計結果や統計については、回答した中学 3 年生にも還元できるとよい。

さらに、中学 3 年生を対象に性教育（性感染症）を実施しているとのことだが、現在は SNS やメディア等により、子どもたちが早い段階からさまざまな情報に触れている。そのため、中学 3 年生だけでなく、1 年生や 2 年生にも実施してもらえるとよいのではないかと。

実際に、中学生が妊娠して医療機関を受診したケースもあった。その際、「このような授業を受ける機会があれば違ったのではないかと感じた。また、若年で妊娠するケースには不登校生徒が多い印象があるため、不登校の生徒にも情報を届けられるとよい。

(竹内委員) 全体的に簡素化されたことで、具体的な内容が分かりにくくなってしまった面もある。しかし、多くのアンケート項目を設けることも負担が大きいと思う。そのため、まずは一度実施し、評価しながら改善していくとよい。

(夏目委員) 参考資料 3 の問 5「相談相手」について、同年代の友達を削除した理由はあるか。

(事務局) 記載に誤りがあったため、同年代の友人を追加します。

(林会長) 毎年の動向が分かるため、よいと思う。

3. 閉会